

はねっと 2

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと

“ぱれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。



講座を受けて育休を取得した男性の育児の様子▲

協働による活動事例を紹介「ちまたのコラボ」

子育てしたい!と思う パパを応援できる社会へ

男性の育児休業(以下、育休)や、家事・育児参画について、職場全体で考えてもらうための出前講座が2021年から行われています。題して「パパカUP講座〜ワーク・ライフ・バランスのすすめ〜(以下、パパカUP講座)」です。特定非営利活動法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク(以下、ファミサポ)と、仙台市市民局市民活躍推進部男女共同参画課(以下、男女共同参画課)が協働で開催しています。

男性の家事・育児参画への変化を職場から

パパカUP講座は、全社員を対象とした講話と、これから父親になる人・子育て中の男性を対象としたワークショップで構成される連続講座です。男性が家事・育児に関われる職場づくりが、ひいては誰もが仕事とプライベートの両方を大切にできる一歩になることを知ってもらうために開催しています。たとえば講話の中では、共働きでも家事・育児の負担が女性に偏っていることがデータで示されます。女性たちは「うんうん」と強く頷き、男性は気後れしがちですが、男性の家事・育児参画について、それぞれ違った立場からの気づきにつながることも。働き方を見直すきっかけや、生活環境の違う社員同士の相互理解が生まれています。ワークショップでは男性の当事者同士が、



実際に家事・育児に関わっていくために、職場や家庭で起こせる身近な行動を考えます。想像を巡らせるヒントとして、夫婦の家事分担を見える化する表づくりや、マ

マに対する「NGワード」からの推察の他、男性育休を推進している企業の事例なども紹介しています。

第一子が生まれた年に講座を受講した男性は、育休の重要性を改めて感じ、職場で男性として初めて育休を取得。一か月の育休中、断片的にしか見えていなかった育児の大変さを痛感しながらも、今しかない子どもとの時間を過ごせたことで、かけがえのない家族の思い出ができ、絆が深まりました。「子どもの世話をしながらの家事は、自分のペースでできる仕事とは違って思うように進まないことの連続。限られた時間でいかに効率よく家事をこなすか意識するようになった経験を、今後の仕事に活かしたい」と、働き方に対する考えにも変化が生まれました。また、同じく講座に参加した他の社員や、それ以外の人からも、励ましの言葉や家事・育児のアドバイスをもらうように。ファミサポ代表理事の伊藤任佐子さんは、「講座を通して初めて職場で子育ての話をしたという人も多い。まずは話題にすることが、育休を取得しやすい職場環境への一歩」と話します。

「男は仕事」の重圧緩和へ

仙台市が2019年度に実施した市民意識調査では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えに賛同する人は男性39.8%、女性32.3%。5年前に比べて男女とも減少しました。しかし、未就学児を持つ働く男女の生活時間のうち、男性が仕事に費やす時間は女性より3時間ほど多く、家事・育

特定非営利活動法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク

仙台市市民局市民活躍推進部男女共同参画課

支え合って
子育てできる
環境を
つくりたい



代表理事 伊藤 任佐子 さん、三浦 三恵子 さん



性別に
関わらず、
多様な生き方を
選べるように
したい



企画推進係 係長 鈴木 暁子 さん、主事 西城 将成 さん

児に費やす時間は女性より6時間以上少ない結果に。これを受けて男女共同参画課は、2021年に策定した「男女共同参画せんだいプラン2021」に、基本目標として新たに「男性による男女共同参画の推進」という項目を立てました。男女共同参画課の鈴木暁子さんは、「男性に働くことばかりを求める社会環境が変わらなければ、男性の生き方、働き方の選択肢は広がらない。男性への意識変化を促すだけでなく、企業などへの働きかけも行っていきたくった」と語ります。

同年度から、男性の育休取得率向上と、家事・育児に参画しやすい社会環境の整備を目的に、ファミサポと協働でパパカUP講座を打ち出しました。構想には、ファミサポが長年培ってきた子育て支援の知識や、冊子「伊達なパパ本」の発行など父親の育児を応援する活動に携わってきた経験が活かされました。ファミサポの三浦三恵子さんは、「子育てには社会全体の協力が必要。仙台市の各課を通して、関わりのある企業に広く呼びかけてもらったおかげで開催できた」と協働の成果を振り返ります。講座は現在までに、3つの企業で計88人が受講しました。

長い道のりでも、未来を変える一歩

直近の課題は、講座の開催先の開拓です。特に規模が小さい会社などでは、育休に伴う人員確保が難しく、コロナ禍による業績悪化も重なり、育休の取得促進まで対応が追いつかないことも。「だからこそ、長い目で根気強く取り組む必要がある」と話すのは、男女共同参画課の西城将成さんです。基本1時間×3回の講座を、企業の都合に合わせて2時間×1回に短縮したり、就業前の学生にも対象を広げたりしながら、まずは受講してもらうための工夫をファミサポと続けています。

りよく アップ パパカUP講座

～ワーク・ライフ・バランスのすすめ～

対象 企業や団体の社員・スタッフ、学生など

開催申込み・問合せ

特定非営利活動法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク

TEL 022-714-2088



～読者の目線から～社会の「気になる○○」

「野良猫」を生み出さない社会にしたい

猫好きですが転勤族家庭で育ち飼う機会がなく、大人になって初めて猫を飼いました。当時は海外赴任中。その国の人々は飼い猫・野良猫の区別なく猫の世話をしていましたが、動物に医療を受けさせる余裕のある人は少なく、病気や怪我をしている猫が多かったため、保護して治療する活動をしました。検疫をパスした飼い猫とともに日本に帰国してびっくりしたのは、野良猫の殺処分の多さ。「目の前の命を救いたい。飼い猫・野良猫と命に線引きなどできない」と思い、野良猫を保護し自分の飼い猫とともに世話をし人なれさせ、里親さんに譲渡する活動を20年近く続けてきました。しかし、野良猫は減りません。野良猫を生み出しているのは、人間です。野良猫をかわいそうと思うだけでなく、自分ができていることを考えてみませんか？

(ぺぎさん 仙台市宮城野区 60代)



▲活動によって命をつないだ猫たち

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。お気軽にご相談ください。

今月の休館日 2月8日(水)、22日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

[ホームページ] <https://sapo-sen.jp>

[サポセンブログ@仙台] <https://blog.canpan.info/fukkou/>

「ばれっと」バックナンバーは
ホームページからダウンロードできます。



ほぼ毎日更新している「サポセンブログ@仙台」で、取材の様子やこぼれ話を配信しています。

編集・発行

仙台市市民活動サポートセンター

(指定管理者：特定非営利活動法人
せんだいみやぎNPOセンター)

発行日 2023年2月1日

デザイン PEACE Inc.

[Twitter]

@SCSC4CA

[YouTube]

サポセンちゃんねる

